

ことで、たとえば、企業が製品の製造で排出したCO₂を、森林保全プロジェクトへ投資することで相殺するなども含まれます。

(11) カーボンプライシング（排出量取引制度）

企業などが排出するCO₂に価格をつけ、排出者の行動変容を促す政策手法です。これは、温室効果ガス排出にコストを割り当てることで、企業や個人が炭素排出を削減する経済的なメリットを高め、脱炭素化への移行を促進することを目的としています。

カーボンプライシングを導入することで、企業はCO₂排出削減の努力が可視化され、環境価値やブランディングの向上、ESG投資家からの注目増加につながる可能性があります。また、国にとっては、財源を確保しながら温室効果ガス排出を抑制できるメリットがあります。

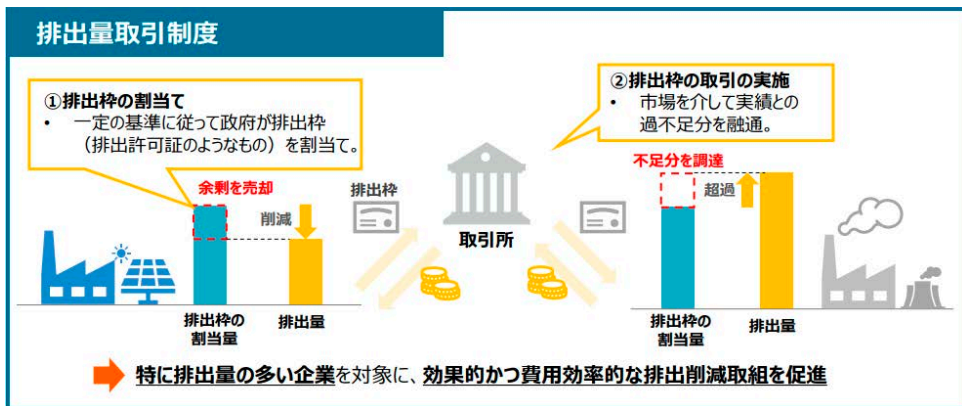


図3 排出量取引制度のイメージ図
 （内閣官房HP_GX実行推進室 令和6年12月より引用）

(12) GX（グリーントランスフォーメーション）

エネルギー・産業・社会の構造を、脱炭素型へと変革する取り組みです。日本政府が推進する脱炭素と経済成長を両立させるための社会・産業構造の大転換を意味します。GXは、化石燃料中心の経済からクリーンエネルギー中心の経済へ移行することを目指す国家戦略です。